

朝鮮語延辺方言の話し言葉における-(i)ntey について

白 蓮花

(言語文化学部 日本語専攻)

キーワード：延辺方言，与格，-(i)ntey，朝鮮語，格助詞

0. はじめに

-(i)ntey は、日本語の格助詞「～に、～ところに」におおよそあたるもので、朝鮮語ソウル方言(以下ソウル方言)では-eykey, -hantey, -ey にあたるものだと考えられる。以下の例文は、筆者¹作例であり、延辺方言でよく耳にする表現である。

(1) emma-ntey kata.

「母-ところに行く。」

(2) namu-ntey kata.

「木-ところに行く。」

例文(1)は活動名詞²に、(2)は非活動名詞にそれぞれ-(i)ntey が付いている。ソウル方言の-eykey, -hantey は活動名詞に、-ey は非活動名詞に付くという使い分けがあるのに対し、朝鮮語延辺方言の-(i)ntey は、活動名詞のみならず、一部の非活動名詞にも使われる。しかし、その使い分けはまだ明確ではなく、どの非活動名詞と使われ、どの非活動名詞と使われないかは明らかになっていない。

1. 先行研究

卒業論文では、李允奎・沈希燮・李云(1992)金泰均(1986)などの先行研究をとりあげたが、本稿では紙幅の都合上、崔花(2010, 2011)のみをとりあげる。

崔花(2010)では、-(i)ntey を-ey とは別個に存在する処格助詞とし、終着点、swuhyeyca(恩恵を受ける者)、動作主の意味機能があると述べている。崔花(2011)は、延辺方言の処格(cekak)助詞を-ey, -mey, -eyse, -meyse, -se, -n, -ntey, eyta, -eytaka, -ta, -taka, -tatayku, -eykey, -poku, -hantey, -hanteyse, -ntey, -intey, inteyse に分けている(太字が本稿で扱っている-(i)ntey に対応する)。崔花(2011)は、この-(i)ntey を動詞句の文法化による-(i)ntey と処格としての-(i)ntey の二つに分けている。

動詞句の文法化による-(i)ntey は、「限定」の意味を持つ「冠形詞形(連体形)」語尾-n と場所の意味を持つ依存名詞-tey が結合したものに由来するとし、名詞と-(i)ntey の間に動詞

¹ 筆者は1982年生まれで、延辺出身の延辺方言の母語話者であり、延辺での居住期間は、1982年～2002年である。

² 野間秀樹(1990: 8)では、名詞の分類を完全名詞と非完全名詞に分け、完全名詞をさらに活動名詞と非活動名詞に分けて示している。本稿では野間(1990)に従い、動物や人間名詞を活動名詞に、それ以外の名詞を非活動名詞に分類する。

句を仮定することが出来ると述べている。文の意味に基づき、動詞句を存在の意味を持つ iss-と仮定すれば、以下の例文(3)の-(i)ntey は-issnuntey と考えられるとしている。これに対し、動詞句を想定することの難しい、文法化した処格であるもう一つの-(i)ntey を取り上げている(例 4)。「+有情性」の意味を持つ名詞句に付く時、より文法化された機能を示す。

- (3) ulithim-eyse phyohyenhan ku ip-ey-ta kuttipun paluku yecatul-ui
kinyangmal-uswukkwungki-pute mokaci-nteykaci tulissuku.

「我々のチームで表現した、あの口紅を塗って女性達のストッキングを旋毛-から首の
辺り-まで被って。」

- (4) ni chekkam-ulo nav-ntey ssessta-nun peyn-ci-lu nay icay komma patapwassta.

「あなたが初めて私-に書いたという手紙を先ほど読んだよ。」

2. 調査

まず、-(i)ntey を含め、延辺方言の与格的意味を表す形式にはどのようなものがあるかについて、延辺方言の漫才やインターネットの掲示板から例文を集めて調査した。延辺方言の漫才は、娯楽番組である特性上、一般的な会話より方言の特徴が強いなど多少大げさなところはあるが、方言の使用状況を調査するには比較的に適している。さらに、自然発話の例文を増やすために、mannamuy kwangcang cwungkwuk yenpyen chapey「出会いの広場、中国延辺カフェ」というサイトから与格を表す表現の例文を探した。このサイトは、中国国内や海外に在住している延辺母語話者向けの情報サイトで、中には nay kohyang sathwuli (私の故郷のなまり)と言う自由掲示板がある。この掲示板は名前の通り、方言で書くことを条件としただけで、内容は特にこだわっていない。このような特徴上、文章ではあるが、自然発話に近いところがある。次に、-(i)ntey が用いられる範囲を明らかにするため、文法書や方言辞書をもとに実際の例文を作り、母語話者にアンケートを取る方法で調査を行った。

3. 漫才とインターネット資料による調査結果

一編で 10 分～20 分の漫才 6 編(詳細は稿末)から-(i)ntey, -hantey, -ekey, -ey を含めた与格的意味を表す表現の例文を計 90 例を集め、インターネットからは、175 例集めた。以下、漫才の結果とインターネット資料からの結果を表にまとめ、二つの結果を比べて提示する。

表 1: 漫才による調査結果³

表現	-(i)ntey	-hantey	-ey	-lu/-u	省略	-mey	-ta	-pokwu	-ka/-kka
例数	9	1	65	8	3	1	1	1	1
割合	10	1	72	9	3	1	1	1	1

表 2: インターネット資料による調査結果

表現	-(i)ntey	-eykey	-hantey	-ey	-u/-lu	省略	-mey	-ta	-pokwu	-hakwu	-ka/-kka
例数	9	3	12	128	4	0	2	3	7	5	2
割合	5	2	7	73	2	0	1	2	4	3	1

漫才からの調査結果では、-(i)ntey の例文が 8 例であるのに対し、-hantey の例文は、1 例しか現れていない。これは延辺方言では、標準語の-hantey に代わって-(i)ntey が使われる割合が高いことを表す。これに対し、インターネット調査では、-hantey の例が 12 例現れた。さらに、漫才の調査では現れなかった-eykey, -hako, -lo は、話し言葉ではあまり使われない表現で、話し言葉では、-eykey より-(i)ntey, -hako より-pokwu⁴, -kka, -lo より-lwu/lu が使われる傾向にある。これはインターネット資料は、話し言葉で書かれたものとはいえ、文書で書いてあるため、改まった表現の-eykey, -hako, -lo が現れた理由だと考えられる。

しかし、漫才の調査とインターネット資料の調査からは-(i)ntey の非活動名詞の例文は現れなかったため、非活動名詞の使用範囲と動詞の意味役割との関わりは、次節のインフォーマント調査で考察する。

4. インフォーマント調査結果

1 回目の調査では、筆者が提示する例文に与格表現を空欄にし、インフォーマントに、与格的な表現を書き込んでもらうことにし、インフォーマントが、主にどのような与格表現を使うか、-(i)ntey はどのような状況で現れるかなどを調査した。次の(5)はアンケートの設問の例である。

(5) emma-ka catongcha () issta.
「母が車()いる」

2 回目は、一回目の調査結果を参考に、-(i)ntey を用いた例文を提示し、自然に使えると答えた例文には「○」、意味は通じるがあまり使わない例文には「△」、使えない例文には「×」として判定してもらった。以下の表 3 はインフォーマントの情報である。

³ 朝鮮語・標準語では、-lo/ulo は延辺方言で、u/lu にあたり、poko は pokwu に、-hako は-hakwu にあたるが、本稿では話し言葉の u/lu, pokwu,, -hakwu に統一する。

⁴ -pokwu が-hako より話し言葉に近いというのは筆者の内省によるものであり、詳しい分析とデータによるものではない。

表 3: インフォーマントの情報

調査対象	性別	出生年	延辺での居住歴
A	男	1954	1954～2016
B	女	1960	1960～2016
C	男	1971	1971～1991
D	女	1980	1980～2000
E	女	1982	1982～2002
F	女	1986	1986～2005
G	女	1987	1987～2008

インフォーマントは7人で、年齢、性別を意識せず、調査を行った。調査結果、-(i)nteyの非活動名詞への使い分けには、絶対的な条件がなく、インフォーマント自身の中でも、インフォーマントの間でも揺れが大きく、意見が分かれていた。1回目の調査では、漫才とインターネットの調査と同じく、非活動名詞における-(i)ntey は、一度も現れなかった。2回目の調査では、主に場所、対象を表す名詞と動詞の組み合わせに-(i)ntey が用いられるという結果となった。本節では、揺れはあるものの、インフォーマントの間で一定の共通性を見せた場所、対象を中心に詳しく分析する。

表 4: 非活動名詞における-ey の-(i)ntey への置き換えの許容範囲

主な意味	より細かく分けた意味と調査に使った動詞
1. 場所	存在の場所 issta(いる/ある).
	事柄、行為の場所 moita(集まる), salta(住む), ancta(座る).
	移動の場所 kata(行く), tochakhata(到着する), tanita(通う).
	範囲の場所 -eyse(pwuthe) -ey(kkaci)/ilunun-/kelchinun-(～から～まで/わたる～/かける～).
	接触の場所 pwutha(付く), mwucta(付く), kitayta(寄りかかる), pwuticchita(ぶつかる).
	目的地、対象としての場所 nehta(入れる), twuta(置く), ssuta(書く), tamta (入れる), sitta(載せる).
2.対象	受け取る対象 tayta(与える), cwuta(やる), pachita(納める).
	受身の対象 ccockita(追われる), kkallita(下敷きになる).

4. 1. 場所

崔花(2011)では、-(i)ntey が存在の場所を表す名詞の後に使われると述べているが、本稿のインフォーマント調査によると、存在の場所だけではなく、行為の場所、移動の場所、範囲としての場所、接触の場所、対象を表す場所に-(i)ntey をとることが出来ると考えられる。しかし、名詞や動詞の組み合わせによって一定の制限がある。

4.1.1. 存在の場所

存在の場所を表す名詞の中で、最も自然に-(i)ntey をとるのは、対象を表す場所名詞で、それ以外は基本的に不自然だという結果となった。しかし、それ以外にも、位置名詞の介入など、いくつかの注目すべき特徴がある。

a. 場所と対象

山、川、学校などの場所名詞より、木、柱、ドアなど、対象を表す場所名詞に-(i)ntey が付きやすい。さらに「～の辺り、～のほうに」を現す-motay, -ccokey といった表現も現れた。

(6) emma-ka namwu-ntey issta.

「母が木の-ところにいる。」

b. 位置名詞の介入

しかし、-(i)ntey をつけた例文を提示せず、与格表現を書き込む一回目の調査では、対象を現す名詞に、木の下、ドアの横、机の上など、位置名詞を加える傾向が強く表れた。よってあえて-(i)ntey の例文を提示しない限り、インフォーマントの間では、位置名詞を加えた形を用いる。なお、位置を表す名詞には、-(i)ntey を取らない。

(7) emma-ka namwu-mith-ey issta.

「母が木の下-にいる。」

c. -(i)ntey と-issnuntey

インフォーマントに、山、川、学校などの場所名詞に(i)ntey を付けた例文を提示すると-issnuntey(あるところ)に置き換えて答えた。つまり、対象を表す名詞以外のより広い範囲としての場所名詞には、-(i)ntey の代わりに-issnuntey を付けるとより自然になり、意味としては「～の辺りに、～のところに」ということになる。これは、崔花(2011)の動詞句の仮定説と似ている。

(8) emma-ka cangmatang-issnuntey issta.

「母が市場の-ところにいる。」

d. 場所の範囲

故郷、都会、ソウルなどの広範囲を表す場所名詞には-ey のみ用いられ、-(i)ntey, -issnuntey どちらも置き換えられない。

(9) pwumonim-i kohyang-ey issta.

「両親が故郷-にいる。」

4.1.2. 事柄、行為の場所

事柄、行為の場所について *moita*(集まる), *salta*(住む), *ancta*(座る)の三つの動詞で例文を作成し、調査を行った。事柄、行為の場所には、基本的に-(i)ntey が付かないが、特定の場所なら可能だという意見があった。

a. 特定の場所への-(i)ntey の置き換え

moita(集まる)の場合、-eyse を用いる以外に、インフォーマント G は、広い場所におけるある特定の場所に「集まる」の場合は、-(i)ntey に置き換えられると答えた。さらに、この場合は、i(この), *ku*(その), *ce*(あの)の指示代名詞と一緒に使うとより自然だと述べた。この意見について他のインフォーマントに聞いてみると、可能性はあるが、強く賛成するわけではなかった。

(10) *ce papsang-intey moyela.*

「あの食卓-に集まって。」

(11) *cenyek-i toyca aitul-un *papsang-intey moye-ancassta.*

「夕飯の時間になると子供たちは食卓-に集まってきた。」

4.1.3. 範囲の場所

範囲の場所においても 4.1.1 の結果と同じく、人体の部位などの限られた範囲のみ-(i)ntey の置き換えが認められた。

(12) *meli-pwuthe palkkuth-intey-kkaci kkongkkong ssamayssta.*

「頭から足先-まで全部包む。」

(13) *70nyentay-eyse *80nyentay-ntey kelchyses.*

「70 年代から 80 年代-にかけて。」

4.1.4. 接触の場所

接触の場所について、1 回目の書き込み調査でインフォーマント全員が用いた与格表現は -ey であったが、2 回目の-(i)ntey をつけた例文を提示する調査では、調査に使った全ての例文が自然に-(i)ntey に置き換えられるという結果が得られた。これは、やはり接触を表す場所は対象を表す場所が多いことから延辺方言では、対象を表す場所に-(i)ntey が積極的に使われる証拠だと考えられる。

(14) *paci-ntey/-ey hulk-i mwutessta.*

「ズボン-に土が付いている。」

4.2. 対象

対象名詞と動詞との組み合わせで、-(i)ntey と対応しやすいのは、受け取る対象、受身の対象である。以下、対応する2つの受け取る対象に具体的に述べる。

a. 受け取る対象

受け取る対象では、tayta(援助する、提供する)と pachita(収める)の場合は、非活動名詞を用いる例文が少なく、-(i)ntey への置き換えも不自然である。しかし、cwuta(あげる、与える)の場合は、動物や植物などの名詞で例文を作ることが出来、-(i)ntey への置き換えも非活動名詞よりは自然に出来るという結果となった。特に動物は絶対、-eykey, -hantey, -(i)ntey のうちどちらかをとり、-ey は取れない。植物の場合は、-ey, -(i)ntey どちらも用いることが出来た。

(16) kkoch-intey mwul-ul cwuta.

「花-に水をやる。」

(96) kovangi-ntey meki-lul cwuta.

「猫-に餌をやる。」

b. 受動文での動作主

ccockita(追われる)は、活動名詞以外は、-(i)ntey を用いることが出来ず、kkallita(下敷きになる)は用いることが出来る。

(17) *pic-intey ccockita.

「*借金-に追われる。」

(99) catongcha-ntey kkallita.

「車-に下敷きになる。」

以上が-(i)ntey に関するインフォーマントの間である程度共通する意見をまとめた結果である。

4.3. インフォーマント調査のまとめ

インフォーマント調査を通じて、-(i)ntey の許容範囲が、場所、対象を表す名詞と動詞に使われることが明らかになり、-(i)ntey が用いられるいくつかの特徴を絞ることができた。まず、場合は、対象を表す狭い場所に限って-(i)ntey を用いることが出来る。しかし、この場合も自然会話では、位置名詞の介入が-(i)ntey より多く使われることで、延辺方言では、位置名詞の介入が非常に頻繁に行われることが分かった。次に、名詞の場合は、人名詞、動物名詞、植物名詞の順に-(i)ntey の対応が自然であり、それ以外の非活動名詞には、-(i)ntey への対応が基本的に不自然である。なお、インフォーマント自身の中で、-(i)ntey に対する一貫した許容範囲がなく、人工的に作られた例文に対し、対応する、しないの間で混乱することも多かった。

5. おわりに

今回の調査目的は、-(i)ntey の非活動名詞における使い分けを明らかにすることであった。最初は、漫才やインターネットの例文など、自然発話を用いる調査を行った。しかし、非活動名詞における-(i)ntey の例文は一例も現れなかった。次に、インフォーマント調査で、-(i)ntey の付いた例文を直接提示し、インフォーマントの意見を求める調査を行い、-(i)ntey が用いられる時のいくつかの特徴をつかむことが出来た。しかし、延辺方言には、-(i)ntey 以外にも与格を表す表現が多いため、あえて-(i)ntey を使わなくても、話の流れや話者の習慣によって与格表現が変わってくる。-(i)ntey の正体がある程度明らかにしたことが本研究の成果であり、延辺方言における与格的な表現をより詳しく考察するのが今後の課題であると考えられる。

参考文献

【日本語で書かれた文献】

野間秀樹 (1990) 「朝鮮語の名詞分類—語彙論・文法論のために—」 『朝鮮学報』第 135 輯 1-59, 1990 年 4 月、朝鮮学会

李姫子・李鐘禧 (2006) 五十嵐孔一・伸悠琳 (訳) 『韓国語文法語尾・助詞辞典』東京: スリーエーネットワーク

【朝鮮語で書かれた文献】

崔花(2010) 「中国延辺地域語処格助詞の意味機能に関する研究」修士論文 朝鮮大学

崔花(2011) 「中国延辺地域語格助詞実現様相に関する研究」博士論文 朝鮮大学

金泰均 (1986) 『咸北方言辞典』ソウル: 京畿大學出版局.

李允奎 沈希燮 李云 (1992) 『朝鮮語方言辞書』延吉: 延辺人民出版社.

調査資料 (いずれも最終閲覧日 2015/10/31)

【漫才】

「nephyen nayphyen/内方外方」<https://www.youtube.com/watch?v=BsWS4epdFrY>

「satonpoki/結婚する両家の顔合わせ」<https://www.youtube.com/watch?v=QNa5UYKR2Rk>

「hyanswutabang/享受喫茶店」<https://www.youtube.com/watch?v=A3NE87HgrCE>

「seypay/新年の挨拶」<https://www.youtube.com/watch?v=q5VcMJBIF6I>

「puksan cipecy kaca/北山の家に戻ろう」<https://www.youtube.com/watch?v=8-uZYl8TRSg>

「mintulley muyekkongsa/タンボポ貿易会社」<https://www.youtube.com/watch?v=cFnNBHgmZsA>

【インターネット掲示板】

<http://cafe.daum.net/cnyanbianliu> 「出会いの広場、中国延辺カフェ」